September 2019

NADPZ

June Newsletter

Vol 1 Issue 21

Inside the Issue

毎年恒例の政府主催地域農業ショーで自然農法を紹介

COVID 19のパンデミックが発生する前は、地区農業局は毎年、全国の複数の地区のさまざまなゾーンで地域農業ショーを開催していました。 地域農業ショーの目的は、アイデアや経験の交換、製品の展示を通じて、小規模農家の経済成長を促進する役割を果たす重要な機会を提供することです。

これらのショーには、地元と近隣のコミュニティから参加し、農機具販売業者や企業も参加しています。 地域農業ショーの間、地区農業担当者は指導者としてまた審査員としての重要な役割を果たします。 彼らは、女性農民たちに環境にやさしい農業、畜産に関する新しい技術を指導するとともに、審査委員会を構成し、展示農産物の審査をします。

パンデミックのためにこの地域農業ショーを開催できませんでしたが、３年ぶりに復活し、今年はムババラプロジェクトサイトで開催されました。数百人のコミュニティの人たちが３日間のイベントに参加しました。

Story continued Page 2

今年は、私たちの自然農法を実践・推進している組合からさまざまな代表を立ててイベントに参加し、自然農法が彼女らの生活にもたらした変化を紹介することができました。

組合のデモ農家と参加する会員農家には輸送手段と食料を提供し、ペンバとチカンタ地区からの自然農法農民もこのイベントに参加して、仲間の自然農法農家を支援しました。

私たちの自然農法農家のいくつかは、特に本年の洪水による不安定な生産シーズンにもかかわらず、優れた展示と収穫を達成することができたことで、賞をもらいました。 ニュース報道によると、十分な収穫を得られなかったためにイベントに参加しなかった農家の数が示され、これらの農民の多くはショーの延期を求めていました。

私たちの自然農法農民がショーに参加でき、自然農法活動をうまく代表していたことをとても誇りに思っています。 彼らの展示や発表を通して、より多くのコミュニティが私たちの活動に加わることを楽しみにしています!

“ペンガウジャネ組合のかご細工クラス

「女性を教育することは村を教育することに繋がる！」 このスローガンが、私たちの組織の指導精神となり具現化してきました。

私たちが２０２２年の活動計画を制作したとき、教育と知識は私たちの最優先議題でした。協同組合の農民たちは、知識と経験は将来の世代に受け継がれるものであるため、知識と情報を提供することは、プロジェクトを成功に導くために持続可能な長期的基盤を確保する戦略であると感じていました。

多くの人にとって単純な趣味や技能と見なされているものが、農村コミュニティにおいては大きな変化と影響を与えます。何故なら、これらのスキルは、多くの恵まれない、また支援を得られない人々にとって、持続可能な収入源を生み出す糧となるからです。

ペンガウジャネ組合は、知識に対する回復力と渇望を持ち続けており、情報を通じて組合組織を構築し続けています。

職業訓練センターの寄宿舎

先月のニュースレターで、カベタ職業訓練センター（KTTC）の３つの建物の写真を紹介しました。皆さんの目にはとてもシンプルな建物に見えるかもしれませんが、ムババラ地域の学校に通っていない一部の若者たちにとっては希望の光なのです。 以前、KTTCに登録したい若者たちと、自宅からの距離がそれを許さないことについて説明しました。

昨年、私たちは若者たちが自分たちでレンガを作っている写真を紹介しました。彼らの寄宿舎が完成すれば、トレーニングプログラムに参加している間、彼らの宿泊施設となるのです。 本年、１０人の女性と１０人の男性を収容できるKTTC寄宿舎の建設が始まりました。 現在、屋根を設置しようとしており、２０２２年１１月、２０２３年の研修年度に入学する新入生を受け入れるのにちょうど間に合うように、正式オープンできることを望んでいます。

大工クラスの学生は寄宿舎で使用される二段ベッドを制作することができ、縫製クラスの学生はそこで使用する寝具を作ることができます。 学生たちはまた、寄宿舎の自立をめざして、自分たちで野菜やトウモロコシを育て、１日１食分は賄えるようになります。

建物の進捗状況とそこから生まれてくる変化をご紹介できることを楽しみにしております。

組合自然農法圃場での収穫

「今年もその時期がやってきた！畑は乾燥し、農産物を収穫して、農作業の終わりを示す時期であり、新年の始まりを象徴する時期でもあるのです！」

毎年１１月から４月の雨季の間、組合の農民たちは毎年プロジェクトサイトの自然農法トウモロコシ畑に種を蒔き、除草、収穫の責任を負います。 この自然農法圃場で使用されている種子は、私たちが最初に自然農法を始めた２００６年以来自家採取されている在来種の種子です。

毎年、収穫期間中、デモ農家は、種子を保存する方法を農家に教えるための実践的なトレーニングの圃場としてフィールドを使用します。 収穫の際、次の生産シーズンに使用される種子は分離されて独自に保管され、残りの穀物は袋に入れられ、徐々に製粉して組合農民たちの主食トウモロコシの食事になります。

今年、青年たちに自然農法圃場の１エーカーが割り当てられ、彼らは自分たちのトウモロコシを育てる責任を持ちました。 彼らはまた、種子の保存法方を教えられ、彼らの収穫物から、２０２２/２０２３年の生産シーズン中に再び１エーカーを植えるのに十分な種子を確保しました。

「自給自足は依然として私たちの指導原則の１つです！